（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）
神奈川県教育委員会教育長　殿

提出日：令和５年３月 16 日
学校名：　県立座間養護学校

令和４年度　学校評価計画書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容 具体的な方策	評価の観点	校　内　評　価 達成状況	課題・改善方策等	学校関係者評価 （２月 24 日実施）	総合評価（３月 15 日実施） 成果と課題	改善方策等
1	教育課程学習指導	○新学習指導要領に基づいてカリキュラムマネジメントを進めることで自立と社会参加を目指す。 ○外部講師の活用や実践報告によって、開かれた教育課程の実施を目指す。	①新学習指導要領を踏まえ教科等横断的な視点で教育課程を編成し、授業実践に取り組む。 ②授業改善プロジェクトを発展的に継続し、チームで評価・改善するサイクルの構築を目指す。 ③ICT 機器を活用した授業・研修等を通じ、地域・保護者と連携した学びの場づくりを工夫する。 ④外部講師を活用することで、地域や社会とのつながりを意識した授業づくりを実施する。	①教科等横断的な視点でカリキュラムマネジメント表の作成や配列の工夫・授業実践を行い、学びの深まりや系統的な学びにつなげる。 ②複数の視点から教科・単元における児童生徒の実態を把握し、実態に応じた目標を達成することができる授業作りをチームで行う。 ③ICT 機器を活用した授業作りにおけるニーズ・実態に基づいた研修会や、地域・保護者と連携した研修会を実施し、学びの場を提供するとともに、保護者・教員アンケートで有効性を尋ねる。 ④活動のねらいを外部講師等の教育資源と共有・協働した授業作りを実施する。	①教科等横断的な視点で教育課程編成・授業実践ができたか。 ②チームでの授業改善を評価・改善するサイクルを構築することができたか。 ③ICT 機器を利用した学びの場づくりについて、アンケート結果に具体的な数値としてあらわれたか。 ④地域や社会とのつながりを意識した授業づくりを行えたか。	①単元をつなげて学びのねらいが達成できるよう授業実践を行った。また、単元や授業のねらいを明確にし、PDCA サイクルに則った授業改善を行うことができた。 ②複数の視点から授業改善について検討を行い、児童生徒の実態・目標に沿ったチームでの授業実践を行うことができた。 ③ICT 機器の活用に係る研修を児童生徒の実態に合わせて全学部で実施するとともに、視線入力機器や児童生徒が使いやすいアプリケーションを整備した。また、近隣校・地域や保護者に向け研修会を年間３回開催し、各２５０名を超える参加者に視聴いただいた。 ④警察署や青年会議所、保健福祉事業所など地域の方を講師に招いて授業を行うことができた。高等部作業班の製品を地域店舗で使用いただいた他、地域と連携した取り組みが新聞等に掲載され、生徒の達成感の向上につながった。その取り組み内容を、対面で実施した「公開研究報告会」で、地域の方々に発表することができた。	①教科等横断的な視点での年間指導計画の見直しと、学校教育目標から年間指導計画・個別教育計画が一本の縦軸でつながるよう改善が必要である。 ②学部によって評価・改善の日常的なサイクル構築に差が生じていた。 ③情報活用能力の育成を目指した系統的な実践を行うことが今後の課題である。 ④生徒が地域のニーズに応えていくために何ができるのかを考えられるシステム作りが課題であるとともに、地域に学びの場を広げるきっかけづくりが必要である。	① 〈保護者アンケート〉 子どもが何を学べたのかもっと知りたい。 ② 〈保護者アンケート〉〇87% ・小学部の縦割り学習が良かった。 ③ 〈保護者アンケート〉 〇55%・分からない 35% ・ICT 機器を活用した授業の工夫、オンラインでの授業参観を進めてほしい。 ④ 〈保護者アンケート〉 △22%・分からない 28% 〈教員アンケート〉△32% ≪公開報告会アンケート≫ ・勤務校で座間養護の実践を共有したい。 ・地域にも先生が居るので、ふれあいの場を作りましょう。 ≪学校運営協議会≫ ・zoom 等でも報告会に参加できると嬉しい。 ・地域との協働を今後も継続する。	①教科等横断的な視点で単元をつなげて授業実践することでより深い学びとなった。 ②学部・学年によって、チームでの授業改善サイクル構築に差が生じた。どの学部・学年でも取り組みが進められる仕組みが必要である。 ③地域保護者への研修会や、事例検討会・インクルーシブ教育推進学習会を近隣校と開催し、共に学び合う機会を作ることができた。情報活用能力の育成を目指した実践を行うことが今後の課題である。 ④昨年度に増して外部講師を活用した授業、職業や作業学習での地域との協働を行う上で、外部講師と活動のねらいを共有・協働し、地域や社会とのつながりを意識した授業づくりを展開することができた。	①「単元配列表」を作成し、年間指導計画の全体像の「見える化」を進める。学校教育目標から年間指導計画・個別教育計画が一本の縦軸でつながるよう改善を進める。 ②日常的・発展的な授業改善を推進するため「輝く日」を設定し、学部・学年を超えた様々な教員のチームで授業づくりを行う。 ③ICT 機器の活用についての研修会を引き続き開催し、情報活用能力の育成についての実践例・好事例について共有する。 ④地域資源の活用や近隣校とのつながりを生かした授業実践を継続し、地域や社会とのつながりを意識した授業づくりを発展させる。
2	（幼児・児童・）生徒指導・支援	○児童生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを適切に把握し、的確な教育実践につなげる。	①児童生徒の実態の背景や教育的ニーズの把握に向け専門職等と連携・協働してアセスメントを実施し、個別教育計画作成に活かす。 ②チームで協働し、多面的な視点から児童生徒の達成感や自己肯定感	①実態把握を行うためのアセスメントを実施し、専門職等と連携し、個別教育計画作成に活かす。 ②医療的ケアの実施や人権尊重いじめの未然防止について、学年・学部を超えて協働する意識作りを行い、安心し	①実態の背景や教育的ニーズを基にした個別教育計画を作成できたか。 ②チームで協働した教育実践の積み重ねにより児童生徒の達成	①アセスメント結果を共有し個別教育計画の作成や授業改善に活かす取り組みを行うことができた。相談支援アンケートから校内の支援ニーズを把握し、担任と専門職が協働して支援を行えるよう自立活動医事相談等を活用した。 ②性被害をテーマに教員の人権研修会を行い、児童生徒の人権意識向上につなげた。また、いじめの未然防止のため、チームで協働し	①抽出した児童生徒だけでなく、全ての児童生徒にチェックリストやアセスメントの結果を反映できるようにしていく必要がある。 ケース対応に時間がかかることがあった。 ②次年度は人権研修会をいじめ防止に関わるテーマで実施し、継続	① 〈保護者アンケート〉〇94% ・個別課題への取り組みを充実してほしい。 ② 〈保護者アンケート〉 チームの連携：〇87% 人権配慮：〇94% ・医療的ケアの様子を見る機会が欲しい。 ≪学校運営協議会≫ 実態把握と一人ひとりの	①全ての学部で実態把握を行うためのアセスメントを実施することができた。校内ニーズの吸い上げや支援の検討を機能的に行えるよう仕組みを整理する必要がある。 ②人権研修により高まった教員の児童生徒の人権意識や当事者意識をチームで協働した教育活動に更につな	①専門職と連携しアセスメント結果を活かした個別教育計画の作成評価・授業改善につなげる仕組みづくり、校内の教育相談における機能的な実施の仕組みづくりを行う。 ②人権尊重やいじめの未然防止にチームで協働した教育活動を行い

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 24 日実施）	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			を育む教育活動を実践する。	て通える教育活動を実践する。	感や自己肯定感が向上したか。	た即時的な対応と情報共有を行った。	して安心・安全な学校づくりにつなげる。	力を最大限に引き出す手立ての工夫の継続を。	げていくことが課題である。	児童生徒の自己肯定感を育む実践を積む。
3	進路指導・支援	○一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現を支援する。	①学部に応じたキャリア発達の目指す姿をおさえ、より豊かな生活について児童生徒の個に応じた気付きや学びを育てる。 ②進路選択や自己実現に必要な情報提供の機会を増やす。	①小・中・高それぞれの段階における伸ばしたい力・付けたい力を学部全体で共有し、個に応じたキャリア発達支援につなげる。 ②面談・見学会を通し、主体的な進路選択や自己実現につながる情報提供を行う。	①学部に応じたキャリア発達の目指す姿をおさえられたか。 ②学校評価保護者教員アンケート結果に、情報提供の充実が数値としてあらわれたか。	①各発達段階におけるキャリア発達の目指す姿をおさえられるよう、キャリアプランニング・マトリックスを考例に検討した。 ②福祉事業所見学会、企業見学会、年３回の進路支援便りの発行を通し情報提供を行った。	①小・中・高のつながりを意識し、キャリア発達を推進する。 ②主体的な進路選択につながる情報提供の方法や進路学習の進め方を検討する。	① 〈保護者アンケート〉〇89% ②〈保護者アンケート〉 情報提供：〇82% 保護者の 62%が進路指導の充実に期待しており、情報提供の工夫や学習会を望む意見もあった。 ≪学校運営協議会≫ 意思決定能力を育む地域との協働に期待したい。	①様々な人と関わる力や、伝える力、楽しむ力、支援を求める力など、学部の実態に応じた目指す姿や育てたい力について検討することができた。 ②面談・見学会を通し、生徒・保護者に情報提供を行うことができたが、充分ではなかった。	①目指す児童生徒像に応じて、個々に伸ばしたい力、付けたい力を共有し個に応じた支援進路指導につなげる。 ③小中学部の保護者、教職員への情報提供の方法や説明会の開催の充実を図る。また移行支援について地域との計画的な協働を行う。
4	地域等との協働	○地域との連携を図り、地域資源を活用した教育活動を推進するとともに、地域貢献する。 ○地域における相談支援センターとしての機能の充実を図り、インクルーシブ教育を進める。	①安全安心な感染症対策を講じ、地域の方々と交流する機会を作る。 ②学校全体で「センター的機能」の充実を図り、研修会や巡回相談等を通し、地域ぐるみのインクルーシブ教育の推進を図る。	①オンライン交流や、安全安心な感染症対策を講じた交流・居住地交流を計画実施する。座間養ミュージアムや高校との連携、作品展、職業体験先での交流機会等を継続する。 ②巡回相談への校内教員の同行や相談支援掲示板での支援力向上のための情報共有を行い、学校全体でのセンター的機能の充実につなげる。	①地域の方々と交流する機会を前年度より増やすことができたか。 ②巡回相談同行後や研修後のアンケート結果に、インクルーシブ教育推進に向けた意識の向上が数値にあらわれたか。	①感染症対策を講じ、居住地区小学校と交流を６回実施することができた。また、近隣校の文化祭への作品展示や座間養ミュージアムでの客演と合同鑑賞等を通して交流することができた。 ②インクルーシブ教育推進の意識を持って。地域の巡回相談を実施できた。巡回相談への校内教員の同行や校内掲示板への支援のポイントの定期的な更新を行った。地域のニーズに合わせた研修会を実施した。	①行事以外にも日常的な交流ができるようにしていく。 ②校内教員や保護者に本校のセンター的機能の実践について周知することは難しかった。	①〈保護者アンケート〉 〇61%・分からない 12% ②〈保護者アンケート〉 △22%・分からない 29% 〈教員アンケート〉△32% ≪巡回相談同行者≫ 相談支援係の実践を知る貴重な経験になった。 ≪研修会参加者≫◎86% ≪学校運営協議会≫ 地域の学校と隣接していることをインクルーシブ教育推進に活かしたい。	①居住地交流、近隣校との交流、職業体験先での交流など、地域の方々と交流する機会を前年度より増やすことができた。 ②巡回相談同行者はセンター的機能の重要性や役割の理解を深め地域との支援のつながりを学ぶ機会になった。研修会は地域の方とインクルーシブ教育について考える機会となった。	①今後も感染症対策を講じながら、近隣校との交流をはじめ、可能な限り様々な人とのかかわりや場面の経験ができるよう交流する機会の設定を増やす。 ②HP や Teams、職員会議等で校内外の支援について周知する。巡回相談同行を継続し学校全体でのセンター的機能の充実を図る。
5	学校管理学校運営	○安全で安心な教育環境整備、指導体制整備を進める。 ○生徒と向き合う時間や教材研究の時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①安全で安心な活動ができるよう、教室等の教育環境を整備する。 ②防災体制整備計画について地域との連携体制の充実を図る。 ③業務のスリム化や会議方法を工夫し教員の働き方改革を推進する。 ④不祥事防止や事故防止のための情報共有を進め、人権意識を高める。	①体育館やプールの修理等の環境整備状況について、保護者や関係機関への周知・連携を図る。 ②地域の防災組織からの助言等を受け、より機能的な防災組織の構築を図る。 ③分掌業務の整理を行うとともに、会議設定時間や情報の共有方法を改善する。 ④不祥事防止会議を中心に同僚性を高める取り組み等を実施し、不祥事防止に取り組む。	①安全安心な教育環境整備を進めることができたか。 ②地域と連携し防災体制の見直しを進めることができたか。 ③時間内での会議終了や情報共有の工夫が効率的な働き方につながったか。 ④不祥事防止の意識を高められたか。	①工事業者や事務主査と情報共有を定期的に行い、保護者への周知を図り、教育環境を整備した。また、特別支援教育課作成のガイドラインを根拠に座間養護学校における感染症対策を改訂した。 ②防災部会にて近隣校や地域自治会との連携について確認し、被災時に座間高等学校へ避難できるよう協議を進めることができた。 ③Teams で事前に論点を共有・焦点化しておくことで会議の効率化や内容の深まりが見られた。 ④各学部で取り組み内容を考え、学部内交流や同世代での意見交換、事例検討等を実施することにより、同僚性を高める意識を醸成することができた。	①校舎老朽化による修繕箇所の優先箇所や、学び舎としての在り方を検討する。 ②座間市福祉避難所開設については防災対策委員会を窓口として大規模災害発生後の対応を検討する。 ③会議時間を超過することもあり、更なる事前の共有の工夫や業務の整理が必要である。 ④今年度の不祥事防止研修の成果を生かし、事故防止に努めていく。	① 〈保護者アンケート〉 校舎内環境整備：〇73% 保護者の 30%が環境整備の充実を希望。 ② 〈保護者アンケート〉〇89% 〈教員アンケート〉△44% ≪学校運営協議会≫ 自治体・地域と合同防災訓練実施に向けた検討をしたい。 ③ 〈教員アンケート〉〇72% ④ 〈教員アンケート〉〇99%	①長期にわたる体育館の工事が安全に終了した。また各学習活動をより安全に展開できる感染対策の留意事項に整理した。また、近隣校や地域自治体と防災についての体制連携を確認できた。職員防災研修をはじめ、地域と連携した訓練を次年度は実施する。 ③今後も要点を絞った協議や連絡ができるようにする。 ④「人権配慮」「業務改善」「同僚性の向上」等について意見交換することで、互いに声を掛け合う意識が高まった。	①引き続き優先箇所を検討しながら、修理修繕箇所に努める。 ②地域の防災組織からの助言を受け、より組織的な防災組織を構築する。また自治体との合同訓練検討を行う。 ③業務・会議内容の精選、時間設定・事前共有の工夫を行い、目指す児童生徒像の育成につながる働き方改革を推進する。 ④不祥事防止研修を継続し、事故防止についての全体への共有方法の仕組みをつくる。